

総合周産期母子医療センター（小児科部門）

<新生児集中治療部>

1. スタッフ

部長（准教授） 高橋 尚人
 病棟医長（助教） 矢田ゆかり
 病院助教 小池 泰敬
 病院助教 川又 竜
 他、小児科と兼務

28	9	1	90%
29	7	0	100%
30	14	0	100%
31	16	0	100%
32	20	1	95.2%
33	21	2	91.3%
34	45	0	100%
35	32	0	100%
36	33	4	89.2%
37以上	176	4	97.8%
計	382	14	96.5%

2. 診療科の特徴

栃木県において総合周産期センターに認定された二施設のひとつとして、栃木県で出生するハイリスク新生児のほとんどを二分する形で診療している。地方の中核病院であり、入院するハイリスク新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。勤務するスタッフは全員、診療科としては小児科に属しており、兼務である。

認定施設

日本周産期・新生児医学会認定研修施設

認定医

日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医
 高橋 尚人

3. 診療実績

1) 入院患者数

396名
 院内出生343名（母体外来観察例65名、母体搬送例67例、母体外来紹介208例）、院外出生56名（病院等からの搬送53例、自宅出生等3例）
 院内出生率86.7%、院外出生新生児搬送13.3%

2) 人工呼吸器管理数・率

152/396例、38.4%

3) 生存率・死亡数等

年間死亡症例数14例
 在胎週数別生存率

在胎週数	生存	死亡	生存率
22週	0	1	0.0%
23	0	0	-
24	3	1	75%
25	2	0	100%
26	2	0	100%
27	2	0	100%

出生体重別生存率

出生体重	生存	死亡	生存率
～499g	0	0	-
500～749	3	2	60%
750～999	13	0	100%
1000～1249	21	1	95.5%
1250～1499	29	0	96.7%
1500～1749	29	2	93.5%
1750～1999	50	3	94.3%
2000～2499	79	3	96.3%
2500～	158	2	98.8%
計	382	14	96.5%

4) 死亡症例内訳

- ・在胎22週、重症新生児仮死
- ・在胎24週、重症新生児仮死
- ・在胎28週、胎児水腫
- ・在胎32週、18trisomy
- ・在胎33週、13trisomy
- ・在胎33週、胎児水腫
- ・在胎36週、DORV, PA
- ・在胎36週、18trisomy
- ・在胎36週、Potter症候群
- ・在胎36週、新生児仮死
- ・在胎39週、18trisomy
- ・在胎39週、心不全、IVH
- ・在胎40週、TAPVR
- ・在胎41週、TAPVR

5) 先天性心疾患入院例

有意な血行動態異常を呈する重症例36例。その内、胎児診断例16例で、入院後PICU転科・手術例16例が、NICU内での死亡が7例。

6) 多胎入院数

多胎102例、内3胎2組。
 （入院全体の25.8%）

7) 外科症例（手術例のみ）

32例（網膜症光凝固例9例ふくむ）

8) 逆搬送

状態が安定したあと、自宅退院でなく、搬送元の病院等に転院したものの。54例。

4. 事業計画・来年の目標

栃木県も他県と同様、周産期医療体制は崩壊の危機にある。今後も県内の他施設や行政と協力して、周産期医療体制の改善・維持を目指したい。

現在、世界的に「新生児蘇生法」の標準化が進んでいる。08年度、日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業に基づく講習会を開催したが、来年度も継続して開催し、その普及に努めたい。

日本周産期・新生児医学会の専門医制度が始まり、現在、栃木県で唯一の専門医が認定されているが、さらに来年度以降も、専門医を増やしていきたい。

<新生児発達部>

1. スタッフ

部長（准教授）	河野 由美
准教授	高橋 尚人
助教	矢田ゆかり
非常勤講師	本間 洋子

2. 診療科の特徴

NICU退院児を主な対象とし生後1か月から小学校3年生まで長期フォローアップを行っている。診療内容は成長・発達の健診とともに合併症の治療・精査、必要な養育支援である。外科系診療科、心理、リハビリテーション部門と連携して包括的な診療を行っている。新生児難聴スクリーニングの精査・フォローもを行っている。

3. 診療実績

NICU退院児を主な対象とした新生児フォローアップ外来は、4名で計8コマを担当している。2008年の年間総受診数約2,500人であった。冬季に行われるRSV重症化予防のためにパリビズマブの接種も、のべ260人に実施した。

4. 事業計画・来年の目標

重症な疾患から回復しNICUを退院した児の成長発達のためのサポートを充実させていく。地域の医療、福祉、教育とのさらなる連携をはかっていきたい。